

1 普及活動 Educational Activities

1-1 資料の収集及び図書室の公開 Art Libraries and Other Reference Materials

本館アートライブラリは4,809件の図書・カタログを受け入れ、平成16年度末現在の蔵書総数は、95,681点の図書・カタログと、3,283誌の雑誌となった。また、平成16年度中に行った資料の交換件数は、国内機関との間で269件、国外機関との間で211件であった。昨年3月に公開した東京都現代美術館、横浜美術館とのALC(美術図書館横断検索)についても順調に稼動しており、閉架資料の利用件数が大幅に拡大している。また、昨年11月、OPAC(公開図書検索システム)をバージョンアップして、多言語対応とし、音標符号文字、簡体字、ハングルの表示を可能にさせて、より正確な書誌情報の提供に努めた。アートライブラリについては、ALCの紹介とともに、『図書館雑誌』(日本図書館協会)ほかの専門誌、及び全国紙(『朝日新聞』)において、積極的に広報された。

工芸館図書閲覧室は、1,144件の図書・カタログを受け入れ、平成16年度末現在の蔵書総数は12,235点の図書・カタログと655誌の雑誌となった。また、図書閲覧室の存在が次第に認知されてきたことや、平成16年1月から始まった工芸館ガイドスタッフの知識の向上のために、蔵書が活発に利用され、昨年度の260人に対し、平成16年度は438人と、約1.7倍の利用者があった。

[本館]

	購入	寄贈	遡及入力	計	収蔵総点数
和図書	308	240	107	655	20,942冊
洋図書	102	16	238	356	9,080冊
国内展覧会カタログ	19	1,346	208	1,573	39,277冊
海外展覧会カタログ	50	632	1,543	2,225	26,382冊
和雑誌					2,532誌
洋雑誌					751誌
アートライブラリ開室日数	平成16年4月1日－平成17年3月31日				223日

[工芸館]

	購入	寄贈	遡及入力	計	収集総点数
和図書	21	148	63	232	4,408冊
洋図書	1	20	4	25	517冊
国内展覧会カタログ	0	402	163	565	6,711冊
海外展覧会カタログ	1	65	256	322	599冊
和雑誌					597誌
洋雑誌					58誌
工芸館図書閲覧室開室日数	平成16年4月1日－平成17年3月31日				170日

1-2 児童生徒を対象とした事業

1-2-1 本館

■学校等の団体での来館者に対し、ギャラリートーク、ガイドンス、修学旅行、職場見学などの対応を随時行った(大学生に関しては、「大学等との連携」を参照のこと)。

合計21件(469名)

小学校4件(143名) 中学校12件(290名) 高等学校5件(36名)

*小学校には、深谷市教育委員会生涯学習課アーティスト倶楽部、ガールスカウト千葉県第39団ジュニア部門を含む。

■美術鑑賞教育に関する研究を目的とし、小・中・高校教員及び教育関係者に向けて以下の事業を行った。

・研究会などへの協力(講演、展示解説等)

合計7件(147名)

荒川区中学美術部会、極東ロシア美術教育関係者グループ、東大和市公立中学校教育研究会美術部会、千代田区教育会美術部会、埼玉県伊那町教育研究会函工美術部会、文京区小学校教育研究会函工部、練馬区図画工作研究会
・小・中・高校教職員のための研修会(「ゴッホ展 教職員研修会」)

日時：平成17年3月31日(木)午後2時から(60分)

会場：東京国立近代美術館本館講堂

講師：保坂健二郎(企画課研究員)

聴講者数：128名

■ボランティアによる小・中学生向けプログラムを行った。

・「夏休み!こども美術館」として、ボランティア「MOMATガイドスタッフ」によるギャラリートーク及びワーク(ギャラリートークと連動した制作実習)を行った。

小学生プログラム 4回(93名)

日時：平成16年7月31日(土)、8月1日(日)

中学生プログラム 6回(55名)

日時：平成16年8月6日(金)、7日(土)、8日(日)

・「春休み!こども美術館」として、春休みの期間中、ボランティアガイドスタッフによるギャラリートークを行った。

小学生プログラム 4回(128名)

日時：平成17年3月26日(土)、27日(日)

■小・中学生向けセルフガイドの制作及び無料配布を以下のとおり行った。

・「鑑賞ノススメ・こども版」を夏休み中の来館児童に配布した。

・「ゴッホ展セルフガイド」を、都内の小・中学校と来館児童に配布した。



■外部講師によるギャラリートーク

「MOMATの絵をアレナスさんと鑑賞しよう」

日時：平成17年3月29日(火) 午後3時から(110分)

講師：アメリカ・アレナス(美術館教育研究者)

会場：所蔵品ギャラリー

聴講者数：35名(小学5・6年生)

共催：三井物産

■ホームページによる広報

当館の主要作品の図版・解説が掲載された「こどものページ」を運営した。

■夏休み企画として、本館・工芸館・フィルムセンター共同スタンプラリー「KIDS★MOMAT」を行った。

1-2-1 工芸館

■学校等の団体での来館者に対し、ギャラリートーク、ガイダンス、修学旅行、職場見学などの対応を随時行った(大学生に関しては、「大学等との連携」を参照のこと)。

合計 6件(112名)

中学校 3件(17名) 高校 3件(95名)

■ホームページ内に「こども工芸館」を設け、作品鑑賞のポイント、素材・技法の特性などを画像入りでわかりやすく解説した。

■平成16年6月から、児童生徒を対象とした触知による作品鑑賞補助と創意向上のために、工芸館ガイドスタッフによるガイドとワークショップ「どきどき!こども工芸館」を開始した。

■常設展「動物のモチーフ」会期中、児童生徒を対象に以下の事業を行った。

・小・中学生を対象として、展覧会に関連したワークシート「たんけん!こども工芸館」を作成し、学校等及び来館した小・中学生に配付して鑑賞の一助となるようにした。また、ワークシートに動物似顔絵を描くシートを添付して「動物がおえ大会」を実施し、参加児童の作品は2階展示ホール及び休憩室に掲示するとともに、リングファイルでまとめて閲覧できるようにした。

・小・中学生を対象としたワークショップを開催し、外部講師として招いた出品作家や陶芸家の指導のもと、紙粘土でお面を作成した(参加者 15名)。

◆「国吉康雄」展講演会

「国吉康雄の夢の島」

日時：平成16年4月10日(土)午後2時から午後3時

講師：市川政憲(愛知県美術館館長)

聴講者数：57名

「国吉康雄の不思議な空間」

日時：平成16年4月24日(土)午後2時から午後3時

講師：蔵屋美香(企画課主任研究官)

聴講者数：117名

◆「ブラジル：ボディ・ノスタルジア」展講演会

「ブラジル・人類学・映像」

日時：平成16年6月26日(土)午後2時から午後3時30分

講師：今福龍太(札幌大学教授)

聴講者数：116名

「ブラジル・モデルニズモの射程：タルシラと食人主義」

日時：平成16年6月27日(日)午後2時から午後3時30分

講師：古谷嘉章(九州大学教授)

聴講者数：56名

「トロピカリア：音楽・美術・映画・演劇のミックス・アート、その歴史と現在」

日時：平成16年7月3日(土)午後2時から午後3時30分

講師：中原 仁(音楽評論家)

聴講者数：132名

「〈証と伝承〉としてのシネマ・ノーヴォ」

日時：平成16年7月10日(土)午後2時から午後3時30分

講師：榎木 章(映画評論家)

聴講者数：66名

「シネ・トランス&トラッシュ ブラジル映画の〈開かれた口〉」

日時：平成16年7月11日(日)午後2時から午後3時30分

講師：赤坂大輔(映画評論家)

聴講者数：66名

「トランスアトランティックなブラジル」

日時：平成16年7月17日(土)午後2時から午後3時30分

講師：東 琢磨(音楽評論家)

聴講者数：65名

「オスカー・ニーマイヤーの建築とブラジリア」

日時：平成16年7月18日(日)午後2時から午後3時30分

講師：五十嵐太郎(建築史家)＋白井良邦(Casa BRUTUS編集者)

聴講者数：145名

「ブラジルにおける舞踊について」

日時：平成16年7月19日(月)午後2時から午後3時30分

講師：國吉和子(舞踊評論家)

聴講者数：100名

「ブラジル現代美術の水脈—身体の蜜が揺らされて…」

日時：平成16年7月24日(土)午後2時から午後3時30分

講師：林 道郎(上智大学助教授)

聴講者数：108名

「『ブラジル日記』から」

日時：平成16年7月25日(日)午後2時から午後3時30分

講師：吉増剛造(詩人)

聴講者数：154名

◆「ブラジル：ボディ・ノスタルジア」展イベント

コンサート「リオからの風：ショーロ」

日時：平成16年7月16日(金)午後6時から午後7時

出演：熊本尚美(Flute)、笹子重治(Guitar/ショーロクラブ)、秋岡 欧(Cavaquinho&Bandolim/ショーロクラブ)、Robson Amaral(Percussion)

聴講者数：200名

「詩と映像によるパフォーマンス」

日時：平成16年7月23日(金)午後7時から午後8時

出演：吉増剛造+マリリア

聴講者数：146名

◆「琳派 RIMPA」展講演会

「琳派再考」

日時：平成16年9月18日(土)午後2時から午後3時

講師：古田 亮(美術課主任研究官)

聴講者数：152名

◆国際シムポジウム「琳派・RIMPA」

日時：平成16年8月28日(土)午前10時から午後16時30分

発表者：村重 寧(早稲田大学教授)、玉蟲敏子(武蔵野美術大学教授)、天野知香(お茶の水女子大学助教授)、ヨハネス・ヴィーニンガー(オーストリア工芸博物館学芸員)、北澤憲昭(跡見学園女子大学教授)、古田 亮(美術課主任研究官)

聴講者数：139名

助成：財団法人ポーラ美術振興財団

協力：東京文化財研究所

◆「木村伊兵衛展」ギャラリートーク

日時：平成16年10月22日(金)午後6時から午後7時

講師：増田 玲(美術課主任研究官)

聴講者数：45名

日時：平成16年12月17日(金)午後6時から午後7時

講師：増田 玲(美術課主任研究官)

聴講者数：55名

◆「草間彌生—永遠の現在」展講演会

「無限の反復—草間彌生の世界」

日時：平成16年11月13日(土)午後2時から午後3時

講師：建畠哲(多摩美術大学教授)

聴講者数：69名

「個人とコレクションと草間彌生と」

日時：平成16年11月28日(日)午後2時から午後3時

講師：高橋龍太郎(精神科医、コレクター)、宮津大輔(会社員、コレクター)

聞き手：松本 透(企画課長)

聴講者数：124名

「永遠の現在—草間彌生の近作を中心に」

日時：平成16年12月4日(土)午後2時から午後3時

講師：松本 透(企画課長)

聴講者数：95名

◆「草間彌生—永遠の現在」展ギャラリートーク

日時：平成16年11月5日(金)午後6時から午後7時

講師：保坂健二郎(企画課研究員)

聴講者数：39名

日時：平成16年12月10日(金)午後6時から午後7時

講師：松本 透(企画課長)

聴講者数：56名

◆「痕跡—戦後美術における身体と思考」展講演会

「痕跡が美術になる時」

日時：平成17年1月30日(日)午後2時から午後3時30分

講師：尾崎信一郎(京都国立近代美術館主任研究員)

聴講者数：95名

◆「ゴッホ展 孤高の画家の原風景」講演会

「白黒で、そして色彩で制作すること—ファン・ゴッホにおける色調への関心」

日時：平成17年3月24日(木)午後6時から午後7時30分

講師：シラール・ファン・ヒューフテン(ファン・ゴッホ美術館チーフ・キュレーター)

聴講者数：82名

◆所蔵作品展「近代日本の美術」 研究員による所蔵品ガイド

日時：平成16年5月22日(土)午後2時から午後3時

担当研究員：古田 亮(美術課主任研究員)

聴講者数：32名

日時：平成16年8月21日(土)午後2時から午後3時

担当研究員：中林和雄(美術課長)

聴講者数：43名

日時：平成16年10月9日(土)午後2時から午後3時

担当研究員：三輪健仁(美術課研究員)

聴講者数：10名

日時：平成16年12月25日(土)午後2時から午後3時
担当研究員：中村麗子(美術課研究員)
聴講者数：30名

日時：平成17年3月5日(土)午後2時から午後3時
担当研究員：大谷省吾(美術課研究員)
聴講者数：34名

◆所蔵作品展「近代日本の美術」 研究員によるハイライトツアー

日時：平成16年4月4日(日)午前11時から午後0時
担当研究員：大谷省吾(美術課研究員)
聴講者数：17名

日時：平成16年5月2日(日)午前11時から午後0時15分
担当研究員：一條彰子(企画課主任研究員)
聴講者数：40名

日時：平成16年6月6日(日)午前11時から午後0時
担当研究員：蔵屋美香(企画課主任研究員)
聴講者数：40名

日時：平成16年7月4日(日)午前11時から午後0時20分
担当研究員：増田 玲(美術課主任研究員)
聴講者数：48名

日時：平成16年8月1日(日)午前11時から午後0時
担当研究員：保坂健二郎(企画課研究員)
聴講者数：67名

日時：平成16年9月5日(日)午前11時から午後0時
担当研究員：鈴木勝雄(企画課研究員)
聴講者数：46名

日時：平成16年10月3日(日)午前11時から午後0時
担当研究員：三輪健仁(美術課研究員)
聴講者数：42名

日時：平成16年11月7日(日)午前11時から午後0時10分
担当研究員：中村麗子(美術課研究員)
聴講者数：30名

日時：平成16年12月5日(日)午前11時から午後0時
担当研究員：増田 玲(美術課主任研究員)
聴講者数：26名

日時：平成17年1月2日(日)午前11時から午後0時15分
担当研究員：古田 亮(美術課主任研究員)
聴講者数：60名

日時：平成17年1月3日(月)午前11時から午後0時30分
担当研究員：三輪健仁(美術課研究員)
聴講者数：30名

日時：平成17年2月6日(日)午前11時から午後0時30分
担当研究員：三輪健仁(美術課研究員)
聴講者数：35名

日時：平成17年3月6日(日)午前11時から午後0時30分
担当研究員：都築千重子(美術課主任研究官)
聴講者数：35名

◆所蔵作品展「近代日本の美術」 研究員によるフライデートーク

「現代絵画とストライプ」
日時：平成16年4月16日(金)午後6時から午後6時50分
担当研究員：保坂健二郎(企画課研究員)
聴講者数：17名

「日本の近代美術は、西洋の模倣なのか？—シュルレアリスムを例に」
日時：平成16年5月14日(金)午後6時から午後6時45分
担当研究員：大谷省吾(美術課研究員)
聴講者数：48名

「大正期の絵画」
日時：平成16年6月18日(金)午後6時から午後7時
担当研究員：松本透(企画課長)
聴講者数：23名

「国際都市東京・1920年—中村彝《エロシェンコ氏の像》を中心に」
日時：平成16年7月23日(金)午後6時から午後6時45分
担当研究員：蔵屋美香(企画課主任研究官)
聴講者数：23名

「風景—場所の力」
日時：平成16年8月27日(金)午後6時から午後7時
担当研究員：鈴木勝雄(企画課研究員)
聴講者数：52名

「1970年前後の美術—メディアの拡張、あるいは再考」
日時：平成16年9月17日(金)午後6時から午後7時
担当研究員：三輪健仁(美術課研究員)
聴講者数：34名

「日本画家の肖像とその芸術」
日時：平成16年10月29日(金)午後6時から午後7時
担当研究員：古田亮(美術課主任研究官)
聴講者数：16名

「木村伊兵衛の“現代性”について」
日時：平成16年11月19日(金)午後6時から午後7時
担当研究員：増田玲(美術課主任研究官)
聴講者数：28名

「大正期の『新版画』をめぐる」
日時：平成17年1月28日(金)午後6時から午後7時
担当研究員：都築千重子(美術課主任研究官)
聴講者数：8名

「戦後の日本画—東山魁夷、杉山寧、高山辰雄を中心に」
日時：平成17年2月18日(金)午後6時から午後7時
担当研究員：尾崎正明(副館長)
聴講者数：24名

「描かれた景観—移りゆく東京」
日時：平成17年3月25日(金)午後6時から午後7時
担当研究員：中村麗子(美術課研究員)
聴講者数：25名

◆「アフターファイブに美術鑑賞」
日時：平成17年3月29日(火)午後6時30分から8時30分
講師：アメリア・アレナス(美術館教育研究者)
聴講者数：66名
共催：三井物産
広報協力：文化庁(丸の内元気文化プロジェクト)

1-3-2 工芸館

◆「非情のオブジェー現代工芸の11人」展ギャラリートーク

日時：平成16年9月19日(日)午後2時から午後3時
講師：築城則子(出品作家)
聴講者数：51名

日時：平成16年9月26日(日)午後2時から午後3時
講師：川口 淳(出品作家)
聴講者数：39名

日時：平成16年10月10日(日)午後2時から午後3時
講師：清水真由美(出品作家)
聴講者数：35名

日時：平成16年10月17日(日)午後2時から午後3時
講師：今井陽子(工芸課主任研究官)
聴講者数：10名

日時：平成16年10月31日(日)午後2時から午後3時
講師：高見澤英子(出品作家)
聴講者数：45名

日時：平成16年11月7日(日)午後2時から午後3時
講師：高橋禎彦(出品作家)
聴講者数：64名

日時：平成16年11月14日(日)午後2時から午後3時
講師：金子賢治(工芸課長)
聴講者数：47名

日時：平成16年11月28日(日)午後2時から午後3時
講師：田嶋悦子(出品作家)
聴講者数：51名

◆「人間国宝の日常のうつわ—もう一つの富本憲吉」展ギャラリートーク

「陶芸家、富本憲吉について」

日時：平成16年12月19日(土)午後2時から午後3時30分

講師：辻本 勇(富本憲吉記念館館長)

聴講者数：74名

「富本憲吉の日常のうつわ」

日時：平成17年1月9日(土)午後2時から午後3時30分

講師：唐澤昌宏(工芸課主任研究官)

聴講者数：54名

「富本憲吉先生の思い出」

日時：平成17年1月16日(土)午後2時から午後3時30分

講師：柳原睦夫(陶芸家、大阪芸術大学教授)

聴講者数：48名

「近代陶芸と富本憲吉」

日時：平成17年2月6日(土)午後2時から午後3時

講師：金子賢治(工芸課長)

聴講者数：136名

「富本憲吉の量産について」

日時：平成17年2月20日(土)午後2時から午後3時

講師：木田拓也(工芸課研究員)

聴講者数：45名

◆「河野鷹思のグラフィック・デザイナー 都会とユーモア」展ギャラリートーク

日時：平成17年1月15日(土)午後3時から午後4時

講師：木田拓也(工芸課研究員)

聴講者数：16名

日時：平成17年1月29日(土)午後3時から午後4時

講師：望月 積(東京藝術大学名誉教授)

聴講者数：34名

日時：平成17年2月4日(土)午後3時から午後4時

講師：北村仁美(工芸課研究員)

聴講者数：26名

日時：平成17年2月19日(土)午後3時から午後4時

講師：仲條正義(グラフィック・デザイナー)、井上芳子(和歌山県立近代美術館学芸員)

聴講者数：83名

◆「アール・デコの精華」展ギャラリートーク

日時：平成16年4月24日(土)午後2時から午後3時

講師：今井陽子(工芸課主任研究官)

聴講者数：27名

日時：平成16年5月8日(土)午後2時から午後3時

講師：富田康子(工芸課客員研究員)

聴講者数：31名

日時：平成16年5月15日(土)午後2時から午後3時
講師：木田拓也(工芸課研究員)
聴講者数：21名

日時：平成16年5月22日(土)午後2時から午後3時
講師：北村仁美(工芸課研究員)
聴講者数：19名

日時：平成16年5月29日(土)午後2時から午後3時
講師：唐澤昌宏(工芸課主任研究官)
聴講者数：20名

日時：平成16年6月5日(土)午後2時から午後3時
講師：諸山正則(工芸課主任研究官)
聴講者数：27名

◆「動物のモチーフ」展ギャラリートーク

「文様の楽しみ」
日時：平成16年7月4日(日)午後2時から午後3時
講師：今井陽子(工芸課主任研究官)
聴講者数：35名

「風景の中の小動物」
日時：平成16年7月11日(日)午後2時から午後3時
講師：諸山正則(工芸課主任研究官)
聴講者数：7名

「動物モチーフと私の制作」
日時：平成16年7月18日(日)午後2時から午後3時
講師：安藤 泉(出品作家、鍛金造形家)
聴講者数：45名

「形象と造形」
日時：平成16年7月25日(日)午後2時から午後3時
講師：唐澤昌宏(工芸課主任研究官)
聴講者数：9名

「動物立体表現—古代から現代へ」
日時：平成16年8月1日(日)午後2時から午後3時
講師：金子賢治(工芸課長)
聴講者数：45名

「動物をモチーフにした近代工芸の名品」
日時：平成16年8月8日(日)午後2時から午後3時
講師：木田拓也(工芸課研究員)
聴講者数：12名

「モチーフ表現と素材」
日時：平成16年8月15日(日)午後2時から午後3時
講師：冨田康子(工芸課客員研究員)
聴講者数：12名

「動物のイメージを楽しむ」

日時：平成16年8月22日(日)午後2時から午後3時

講師：北村仁美(工芸課研究員)

聴講者数：17名

◆「I 人間国宝の花/II 近代工芸の百年」展ギャラリートーク

日時：平成17年3月13日(日)午後2時から午後3時

講師：木田拓也(工芸課研究員)

聴講者数：20名

日時：平成17年3月20日(日)午後2時から午後3時

講師：唐澤昌宏(工芸課主任研究官)

聴講者数：21名

日時：平成17年3月27日(日)午後2時から午後3時

講師：北村仁美(工芸課研究員)

聴講者数：35名

■博物館実習生

当館の「博物館実習受入要項」に基づき、次の大学から9名の実習生を受け入れた。

学習院大学、共立女子大学、多摩美術大学、東京家政大学、東京工芸大学、東京造形大学、千葉大学、一橋大学大学院、武蔵野美術大学

実習内容

概要や講義のほか、来館者と作品を繋ぐ橋渡しとしての役割を学んでもらうため、所蔵品から各自1作品を選び、模擬ギャラリートークの課題を盛り込んだ。なお、実習生には事前に実習内容を知らせ、館の提示した課題図書(『ギャラリーガイド 近代日本美術のあゆみ』東京国立近代美術館)の通読を課した。

実習日程

- 8月23日 ガイダンス／当館の概要・理念と方針／教育普及係の仕事／企画渉外係の仕事・グループワーク「展覧会をつくる」
- 8月24日 情報資料係の仕事・ライブラリ紹介・文献の調べ方／質疑応答(展覧会、企画課の仕事を中心に)／課題説明・所蔵品ガイド見学・課題準備
- 8月25日 展示係の仕事・所蔵品ギャラリー概説／絵画彫刻係の仕事・収蔵庫見学／課題準備
- 8月26日 写真係の仕事・収蔵庫見学／版画係の仕事・収蔵庫見学／質疑応答(コレクション、美術課の仕事を中心に)／課題準備
- 8月27日 トーク発表／総合ディスカッションとまとめ

■大学等の団体での来館者に対して、随時対応した。

- ・大学授業、学会等への協力 5件6回(196名)

女子美術大学短期大学(2件)、女子美術大学、多摩美術大学、武蔵野美術大学、中央大学

- ・生涯学習施設等への協力 10件11回(312名)

相模原市民ギャラリー学生ボランティア、市川市美術館を読む会(2件)、津久井町民大学グリーンカレッジつくい、習志野市袖ヶ浦公民館寿学級、所沢市民大学、(社)北沢法人会、中央大学三十年会、慶応婦人三田会、東京三菱銀行社会貢献室、世田谷ARTLOVERS

■博物館実習

当館の「博物館実習受入要項」に基づき、次の大学から4名の実習生を受け入れた。

学習院大学、多摩美術大学、武蔵野美術大学、京都造形芸術大学

実習内容：講義、館内見学、作品取り扱いなど

実習日程

8月23日：展示の企画と実施①、作品の取り扱い①

8月24日：図書収集と管理、工芸館の概要

8月25日：作品の収集と管理、タッチ&トーク見学

8月26日：教育普及活動について、作品の取り扱い②

8月27日：展覧会の企画と実施②

■校外授業としての作品熟覧を以下のとおり行った。

大学3件7回(152名)

平成16年6月24日(東京芸術大学陶芸教室)(20名)

7月15日(東京芸術大学陶芸教室)(18名)

7月18日(武蔵野美術大学芸術文化学科)(11名)

11月18日(東京芸術大学彫金教室)(25名)

12月1日(多摩美術大学染織学科)(48名)

平成17年1月28日(多摩美術大学金属学科)(15名)

2月15日(東京芸術大学陶芸教室)(15名)

1-5 ボランティア

1-5-1 本館

■所蔵作品解説ボランティア「MOMATガイドスタッフ」の活動内容

常設展開館日に所蔵作品についてのギャラリートークを行ったほか、依頼のあった団体へのガイドを行った。また、春休み、夏休みの「こども美術館」や学校からの申し込みに対応して、小・中学生へのギャラリートークや制作指導を行った。常設展の展示替えごとに例会を開催し、研究員の展示に関する講義を受け、その時々の問題点等について協議しながら、トーク・プログラムを運営している。9、10月には担当研究員により個別にトーク指導と面談を行ったほか、フォローアップ研修として11月13日に「写真作品の鑑賞について」(当館研究員による)、2月19日に「彫刻鑄造の諸技法」(台東区立朝倉彫塑館学芸員・村山万介氏、有限会社櫻井美術鑄造・櫻井淳一氏による)を行った。後者には、工芸館及び国立西洋美術館のボランティアも任意で参加した。また、埼玉県立近代美術館、及び水戸芸術館現代美術センターの解説ボランティアグループとの交流を行った。

■MOMATガイドスタッフによる所蔵品ガイド

登録人数：20名

期間：平成16年4月1日ー平成17年3月31日

延べ回数：289回

参加総数：3,802名(1回平均13人)

(平成15年度会期5のうち4月1日～5月16日) 41回/679名/平均17名

会期1 70回/603名/平均9名

会期2 42回/1,164名/平均28名

会期3 61回/538名/平均9名

会期4 52回/517名/平均10名

会期5 23回/301名/平均13名

活動内容：開館日の毎日午後2時より約1時間、来館者との対話を交えながら、所蔵作品についてのギャラリートークを行った。

工芸館では、ボランティアのガイドスタッフにより、作品や資料に実際に触れながらのトークと来館者との対話を交えながら展示作品を前にしたギャラリートークをあわせて行う、「タッチ&トーク」を開催した。

また、「どきどき!こども工芸館」として、夏休み中の8月27日(金)、28日(土)と、特別展「非情のオブジェ」開催中の11月21日(日)、及び春休み中の2005年3月27日(日)に、幼児から小学生を年齢でグループ分けをして実施し、さらにかねて要望があった外国人のための「英語ガイド」を8月29日(日)、11月23日(火、祝)の2回実施した。ガイドを行うに当たっては、展示ごとに内容等に関する担当研究員のレクチャーを行い、さらに各種類のタッチ&トークに応じた綿密な打ち合わせとリハーサルを行って対応した。

会場の展示作品とタッチコーナーで触れる作品及び資料が関連付けられることによって来館者とのトークに活気もたらされ、専門性の高い工芸に対する鑑賞のポイントを分かりやすくガイドしてより深い関心と理解とが得られた。

■工芸館ガイドスタッフによるガイド

登録人数：19名

期間：平成16年6月9日－平成17年3月30日

【タッチ&トーク】(対象：一般)

延べ回数：69回

参加者数：タッチ902名・トーク966名

【どきどき!こども工芸館】(対象：幼稚園～小学生)

延べ回数：4回

参加者数：63名

【英語ガイド】(対象：外国人)

延べ回数：2回

参加者数：14名

2 刊行物 Publications

2-1 企画展覧会カタログ

2-1-1 本館



ブラジル ボディ・ノスタルジア

22.2×15.3cm/180p

本文：

ブラジル：ボディ・ノスタルジア(鈴木勝雄)

図版

タルシラ・ド・アマラル

ミゲル・リオ・ブランコ

アドリアナ・ヴァレジョン

ディアス&リートヴェーク

リジア・クラーク

エルネスト・ネト

ミラ・シエンデル

ブリジダ・バルター

リヴァーネ・ノイエンシュワンダー

FRAME 1 ブラジルのモダニズム：前衛とナショナル・アイデンティティ (鈴木勝雄)

FRAME 2 自由のためのエクササイズ：1950-64年のブラジル美術(三輪健仁)

FRAME 3 困難な時代のアート：1964-80年前後(アラシー・アマラル)

FRAME 4 身体への憧憬：過去そして現在(リゼッチ・ラグナード)

略歴

さらに知るための文献リスト

出品リスト

Brazil: Body Nostalgia (Katsuo Suzuki)

FRAME 1 Modernism in Brazil : Avant-garde and National Identity (Katsuo Suzuki)

FRAME 2 Exercise for Freedom : Brazilian Art, 1950-64 (Kenjin Miwa)

FRAME 3 Art in difficult times (1964-c.1980) (Aracy Amaral)

Arte num periodo difícil (1964-c.1980)

FRAME 4 “Longing for the body”, yesterday and today (Lisette Lagnado)

“Longing for the body”, ontem e hoje

編集担当：鈴木勝雄/三輪健仁

翻訳：小川紀久子/勝矢桂子/佐藤実/山本仁志/ヴェロニカ・コルデイロ/イザベル・パーブリッジ

表紙：柿木原政広(アートディレクション)、前沢拓馬(デザイン)

編集：東京国立近代美術館

制作：印象社

発行：東京国立近代美術館 ©2004



琳派 RIMPA

29.7×21.2cm/240p

本文：

琳派・RIMPA展—はじめに—(尾崎正明)

琳派からRIMPAへ(古田亮)

図版目録

近代工芸における琳派再評価の道程—その言論を中心に—(北村仁美)

近代の琳派観、その周辺(中村麗子)

近世琳派年表(古田亮 編)

近現代琳派評価史(古田亮 編)

作品目録(古田亮/生野諭 編)

How Rimpa Gained International Recognition (Furuta Ryo)

出品作品一覧

編集担当：古田亮/中村麗子

編集補佐：生野諭(多摩美術大学附属図書館)

翻訳：マーサ・マクリントク/小川紀久子/まい子・ペア

制作：アイメックス・ファインアート

印刷：日本写真印刷

発行：東京国立近代美術館/東京新聞 ©2004



木村伊兵衛展

25×19cm/112p

本文：

木村伊兵衛、カメラを持つ人(増田玲)

Ihei Kimura, The Man with the Camera (Rei Masuda)

図版

年譜(竹内万里子 編)

作品リスト

Commentary on the Plates

編集：東京国立近代美術館 増田玲/鈴木勝雄/竹内万里子(客員研究員)

翻訳：小川紀久子/山本仁志

デザイン：桑畑吉伸

制作：コギト

発行：東京国立近代美術館 ©2004



草間彌生—永遠の現在

26.5×25.5cm/312p

本文：

創造のプロセス(草間彌生)

A Process to Creation (Yayoi Kusama)

鎮魂と再生—草間彌生の芸術(松本透)

魂のおきどころ(濹田見彰)

草間彌生の創造の展開—ニューヨーク時代における(出原均)

ディスレクシアの記憶の海へ—私的憧憬の告白として(南島宏)

図版

年譜

文献目録

作品リスト

Requiem and Resurrection: The Art of Yayoi Kusama (Tohru Matsumoto)

Respite for the Spirit (Akira Shibutami)

The Creative Evolution of Yayoi Kusama in New York (Hitoshi Dehara)

The Sea of Dyslexic Memory — A Confession of Personal Yearnings (Hiroshi Minamishima)

編集担当：東京国立近代美術館 松本透/保坂健二郎

広島市現代美術館 出原均

熊本市現代美術館 南島宏

松本市美術館 濹田見彰

編集補助：国立新美術館設立準備室 長屋光枝

翻訳：後町幸枝/スタンリー・N・アンダーソン/富井玲子/日本コンベンションサービス/ロビン・トンプソン(アルファコーポレーション) /山本仁志

アートディレクション&デザイン：中島英樹(中島デザイン)

表紙撮影：ホンマタカシ ©2004

編集：東京国立近代美術館/広島市現代美術館/熊本市現代美術館/松本市美術館

制作：美術出版デザインセンター

印刷：大日本印刷株式会社

発行：東京国立近代美術館/広島市現代美術館/熊本市現代美術館/松本市美術館

©2004 草間彌生/東京国立近代美術館/広島市現代美術館/熊本市現代美術館/松本市美術館



痕跡—戦後美術における身体と思考

29.5×21.5cm/354p

本文：

痕跡—苛酷なる現実としての美術(尾崎信一郎)

イメージ—航跡(ジョルジュ・ディティ=ユベルマン)

指標と似せもの(リチャード・シフ)

超過とプロセス—ウィーン・アクションズム(フーベルト・クロッカー)

図版

1. 表面
2. 行為
3. 身体
4. 物質

- 5. 破壊
- 6. 転写
- 7. 時間
- 8. 思考

作品リスト

List of Works

作家解説

関係年表(尾崎信一郎 編)

TRACES—Art as Harsh Reality (Shinichiro Osaki)

L'image-sillage (Georges Didi-Huberman)

Index and Counterfeit (Richard Shiff)

Überschreitung und Prozess—Wiener Aktionismus (Hubert Klockner)

編集：尾崎信一郎

執筆：ジョルジュ・ディディ＝ユベルマン／リチャード・シフ／フーベルト・クロッカー／尾崎信一郎

翻訳：森元庸介／藤原貞朗／池田祐子／松谷誠子

編集協力：村上明子

デザイン：宮谷一孝(株式会社エヌ・シー・ピー)

印刷：株式会社便利堂

発行：京都国立近代美術館

©2004 京都国立近代美術館



ゴッホ展—孤高の画家の原風景

28.5×23cm/222p

本文：

序 ファン・ゴッホを美術展で歴史的コンテクストとともに語ること(園府寺司)

フィンセント・ファン・ゴッホは「孤高の画家」だったのか(エフェルト・ファン・アイテルト)

カタログ

I. 宗教から芸術へ(園府寺司)

II. 農民の労働、芸術のメタファー(藤島美菜)

III. ハリー闇から光へ(三輪健仁)

IV. アルルーユートピア(保坂健二郎)

V. サン＝レミ、オーヴェール＝シュル＝オワーズ(村上博哉)

ファン・ゴッホ：風景画の諸相(クリス・ストルウェイク)

ヘレーネ・クレラー＝ミュラーと彼女のファン・ゴッホ・コレクション(ピート・ド・ヨンゲ)

美術館紹介—ファン・ゴッホ美術館/クレラー＝ミュラー美術館

フィンセント・ファン・ゴッホ年譜(藤島美菜 編)

主要参考文献(藤島美菜 編)

作家別索引

編集：東京国立近代美術館/国立国際美術館/愛知県美術館/東京新聞

執筆：エフェルト・ファン・アイテルト/クリス・ストルウェイク/ピート・ド・ヨンゲ/園府寺司/

保坂健二郎/三輪健仁/村上博哉/藤島美菜

翻訳：スタイナー紀美子/村山智子/村上博哉/森美樹

デザイン：桑畑吉伸

制作：コギト

印刷：大日本印刷

発行：NHK/NHKプロモーション/中日新聞社 ©2005

Van Gogh in Context [Supplement]

28.5×23cm/40p

本文：

Foreword: Exhibiting van Gogh in a Historical Narrative Context (Tsukasa Kodera)

Vincent van Gogh: a not so isolated artist (Evert van Uitert)

On Some Aspects of Van Gogh's Landscapes (Chris stolwijk)

Helene Kröller-Müller and her Vincent van Gogh collection (Piet de Jonge)

Translated by: Michéle Hendricks / Rachel Esner / Kimiko Steiner

Designed by: Yoshinobu Kuwahata

Produced by: Cogito, Inc.

Published by: NHK / NHK Promotions / The Chunichi Shimbun ©2005

2-1-2 工芸館



非情のオブジェ—現代工芸の11人

29.7×22.7cm/94p

本文：

外側の線(今井陽子)

Line in the Groove (Yoko Imai)

図版

作家・作品解説

作家略歴

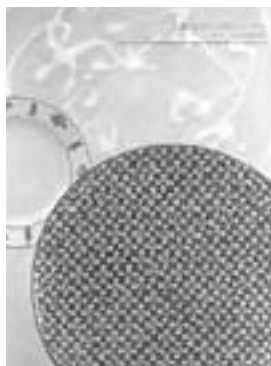
出品目録

編集：金子賢治/諸山正則/今井陽子

翻訳：ルーシー・S・マクレリー

制作：(株)三和プリンティング

発行：東京国立近代美術館 ©2004



人間国宝の日常のうつわ—もうひとつの富本憲吉

29.7×22.7cm/116p

本文：

富本憲吉の日常のうつわ(唐澤昌宏)

Daily Vessels by Kenkichi TOMIMOTO (Masahiro Karasawa)

図版

大和時代

東京時代

京都時代

関連資料

署名集

年譜(木田拓也編)

主要参考文献

出品目録

編集：金子賢治/唐澤昌宏/木田拓也

翻訳：ギャビン・フルー/山本仁志

制作：ニューカラー写真印刷株式会社

発行：東京国立近代美術館 ©2004



河野鷹思のグラフィック・デザイン

29.7×21.5cm/105p

本文：

歴史の中の河野鷹思(金子賢治)

Takashi Kono in History (Kenji Kaneko)

図版

河野鷹思のグラフィックデザイナー—初期活動をめぐって(北村仁美)

Graphic Designs of Takashi Kono: The Background(Hitomi Kitamura)

年譜(富田康子編)

出品作品リスト

参考文献(小豆嶋珠美編)

編集：金子賢治/富田康子/北村仁美

翻訳：高山シンシア/ルーシー・S・マクレリー/山本仁志

デザイン：内藤敏昭

制作：第一印刷(株)

発行：東京国立近代美術館 ©2005

2-2 目録・ガイド等

2-2-1 本館

近代日本の美術 会場案内

10.5×21cm(四つ折り)

ブラジル：ボディ・ノスタルジア 作品解説

36.4×25.7cm



琳派 RIMPA展 出品目録
21×15cm(二つ折り)
フロアマップ

木村伊兵衛展 Floor Guide
21×15cm(二つ折り)
略年譜

草間彌生：永遠の現在 Floor Guide
10×21cm(三つ折り)
草間彌生略歴
執筆：松本透
デザイン：中島デザイン
制作：美術出版デザインセンター
印刷：大日本印刷株式会社
発行：東京国立近代美術館 ©2004

ゴッホ展—孤高の画家の原風景 展示構成・解説
29.7×21.0cm(二つ折り)
解説執筆：保坂健二郎

ゴッホ展 こどもセルフガイド
21.0×14.8cm(四つ折り)
執筆・編集：東京国立近代美術館 白濱恵里子/一條彰子
国立国際美術館 藤吉祐子
デザイン・制作：日本写真印刷株式会社



東京国立近代美術館所蔵名品選 20世紀の絵画
26.3×19cm/310p
本文：
絵画の100年(中林和雄)
図版
日本画
洋画
海外作品
作家作品解説
作品リスト
作家索引
発行：東京国立近代美術館/光村推古書院
発行所：光村推古書院
編集：東京国立近代美術館
レイアウト：文京図案室
制作：ニューカラー写真印刷株式会社
©東京国立近代美術館 2005

2-2-2 工芸館

所蔵作品展 アール・デコの精華 出品目録・フロアガイド
21.0×29.7cm(二つ折り)

所蔵作品展 動物のモチーフ 出品目録・フロアガイド
21.0×29.7cm(二つ折り)

たんけん!こども工芸館 わたしをさがして ワークシート
21.0×15.0cm/8p(リング止め)
印刷：(株)三和プリンティング
編集・発行：東京国立近代美術館

非情のオブジェ—現代工芸の11人 出品目録・フロアガイド
21.0×29.7cm(二つ折り)

人間国宝の日常のうつわ—もう一つの富本憲吉
同時開催 所蔵作品展 近代日本の陶芸 出品目録・フロアガイド
21.0×29.7cm(二つ折り)

所蔵作品展 I 人間国宝の花／II 近代工芸の百年 出品目録
21.0×29.7cm(二つ折り)

鑑賞カード

15×14cm/全12枚(表：カラー図版、裏：解説)

太田儔《籃胎蒔醬文箱 蝶》1986年
寺井直次《金胎蒔絵水指 春》1976年
黒田辰秋《赤漆流稜文飾箱》1957年頃
生野祥雲齋《白竹一重切花入 くいな笛》1967年
小川雄平《陶製黒豹置物》1933年
清水卯一《青磁 大鉢》1973年
前史雄《沈金箱 朝霧》1998年
ダンテ・マリオニ《青い花器》1997年
小名木陽一《赤い手ぶくろ》1976年
鈴木長吉《十二の鷹》1893年
久保田繁雄《The Wave Space II》1988年
平田郷陽《桜梅の少将》1936年



近代工芸案内—東京国立近代美術館工芸館コレクションを中心として
Modern Craft Art Japan—Works from the Crafts Gallery,
The National Museum of Modern Art, Tokyo

21.0×14.8cm/128p 900円
序章 工芸の歴史—縄文から現代へ

I 工芸の起源と系譜

II 近代から現代へ

- 第I章 明治時代
- 第II章 大正・昭和時代
- 第III章 1945～1960年代
- 第IV章 1970～1980年代
- 第V章 1990年代以降

用語解説

作家索引/主要作家解説

近代工芸年表

編集：東京国立近代美術館 金子賢治/諸山正則/唐澤昌宏/今井陽子/木田拓也/北村仁美/富田康子/齊藤佳代
英訳：青山和平
デザイン：八木健夫/石森舞絵
制作：株式会社コエランス
発行：東京国立近代美術館 ©2005

2-3 研究紀要・年報等

東京国立近代美術館研究紀要 第9号

24×18.3cm/74p

マティス試論(中村和雄)

竹内栖鳳(雨霽)についての試論(中村麗子)

倒錯芸術論考(金子賢治)

工芸論の座標軸—あるいは“前衛工芸の日本”にかんする試論(富田康子)

発行所：東京国立近代美術館

制作：印象社

平成15年 東京国立近代美術館年報

25.6×18.3cm/192p

(美術・工芸部門)

I 作品収集・修理等/II 公衆への観覧/III 調査研究/IV 教育普及
(映画部門)

I 作品収集・復元等/II 公衆への観覧/III 調査研究/IV 教育普及



〈記録〉

発行：独立行政法人国立美術館 東京国立近代美術館

制作：美術出版デザインセンター



2-4 美術館ニュース『現代の眼』索引

545号 4-5月号

特集：近年の新収蔵作品から(1)

近年の新収蔵作品について(平成11~15年度 美術作品)

アール・デコフランス装飾美術の最後の光芒◆牟田行秀

[作品研究]無根拠ゆえにバロックは装飾を求める—青木淳の《U bis》をめぐって◆保坂健二郎

[連載22]東京国立近代美術館の半世紀◆諸山正則



546号 6-7月号

特集：ブラジル：ボディ・ノスタルジア

ブラジルの曲線、ゆれる海の記憶◆管 啓次郎

スイカジュース(スッコ・ド・メランシアー)とチーズパン(ボンディケージョ)—即興と変容のダイナミズム◆神谷幸江

工芸品に見る動物◆横溝廣子

[教育普及リポート]春休み!こども美術館/ワークショップ—(花)を染める

[作品研究]周縁が語る中心—荒川豊蔵の黄瀬戸◆北村仁美

[アーツライブラリから]美術図書館の横断検索◆水谷長志



547号 8-9月号

特集1：琳派 RIMPA / 特集2：近年の新収蔵作品から(2)

琳派の生々流転◆小林 忠

パリのRIMPA ウィーンのRIMPA◆馬淵明子

近年の新収蔵作品について(平成11~15年度工芸作品)

[作品研究]北脇 昇《紫野の景観》を読み解く◆大谷省吾

[連載23]東京国立近代美術館の半世紀◆中林和雄



548号 10-11月号

特集1：草間彌生—永遠の現在/特集2：非情のオブジェ—現代工芸の11人

草間彌生私記◆谷川 渥

永遠の少年少女を生きる—草間彌生◆木幡和枝

「非情のオブジェ—現代工芸の11人」展によせて◆不動美里

織ることをめぐって◆上原美智子

「土のかたち」を求めて—虚から延へ—◆伊村俊見

外国のグラフ雑誌に見る木村伊兵衛の報道写真◆白山真理

[報告]国際シムポジウム 琳派・RIMPA◆古田 亮

[連載24]東京国立近代美術館の半世紀◆都築千重子



549号 12-1月号

特集：河野鷹思のグラフィック・デザイン

『現代の眼』創刊五十周年によせて◆辻村哲夫

ミュージアム・アズ・パブリッシャー 『現代の眼』におもうこと◆水谷長志

河野鷹思さん追思◆白田捷治

映画と河野鷹思◆田中真澄

「記号—解釈」から「痕跡—証言」へ◆辻成史

富本憲吉先生の思い出—京都時代を中心として—◆小山喜平

[教育普及リポート] KIDS★MOMAT—2004年東京国立近代美術館のなつやすみ



550号 2-3月号

特集：ゴッホ—孤高の画家の原風景

ファン・ゴッホを展示するということ◆アンドレーアス・ブリューム/訳・解説 保坂健二郎

工芸とモダニズム—工芸の現代性に関するエスキス◆北澤憲昭

戦後日本画の新風—横山操と中村正義◆大谷省吾

[教育普及リポート]タッチ&トーク—工芸館ボランティアガイドの試み

[作品研究]中村錦平《日本趣味解題》—叛逆の憂鬱◆富田康子

[連載25]東京国立近代美術館の半世紀◆大場正敏

3 広報

3-1 広報

3-1-1 本館

■マスメディア関係

年間スケジュール、プレスリリース(展覧会ごとに、内容を紹介する資料(A4判、フルカラー、約8P))と記者内見会(原則展覧会開催日の前日に開催)の案内を作成、新聞社・雑誌社・テレビ局・ウェブサイト管理会社・ライター等マスメディア関係約550件に配布。展覧会紹介、美術館紹介に関する取材、撮影、資料提供に随時対応。

- ・「びあ」との年間契約

代表的な情報誌「びあ」の展覧会紹介欄を年間で13枠買い取り、定常的な広報媒体とした。

- ・年始開館の告知

朝日新聞マリオン欄(12月31日付)に年始開館(1月2日から)の告知記事を掲載。

- ・週刊朝日百科「日本の美術館を楽しむ No.16」(2005年2月6日発行、朝日新聞社)に取材協力を行った。

■美術関係機関

年間スケジュールのほか、展覧会ごとのポスター、チラシを、美術館・美術学校・ギャラリー等約1,400件に送付(都内・関東近県の主要な国公立美術館など約60館にはチラシを交換送付)。

◆学校関係

年間スケジュールを小中高等学校約2,700件に送付。

◆そのほかの施設

年間スケジュール、チラシ、ポスターをホテル・観光協会等約170件に送付。展覧会に応じて、美術・文化関係で定評のある大型書店や飲食店・レコード店等に、チラシや割引券付フライヤー(葉書型、葉型)の配布、PR誌上での展覧会紹介等の協力を得ている。

- ・「ブラジル：ボディ・ノスタルジア」展においては、東京メトロとタイアップしたポスターの制作・掲出や、飲食店、アパレル店をターゲットとしたポストカードの制作・配布を行った。

- ・「草間彌生—永遠の現在」展においては、りそなカード株式会社と連携し、会報誌に展覧会情報を掲載した他、りそな銀行各支店でポスター等を掲示。

◆交通広告

展覧会ごとにJR、地下鉄、私鉄等でポスターを掲出。各鉄道会社のインフォメーション・ボードや広報誌へも情報を提供。

3-1-2 工芸館

工芸館では、3-1-1に掲げる活動に加え、次の2誌に所蔵品を取り上げた連載

を行い、近現代工芸及び東京国立近代美術館の活動全般の周知に努めるとともに、そのときどきの展覧会の広報普及を図った。

- ・「近代工芸の名作」『月刊チャイム銀座』（発行：株式会社和光）
その月の展覧出品作から名品を一点選び、その見所、歴史的意義、作家のプロフィールなどを解説。
- ・「古典が息づく現代の工芸 東京国立近代美術館工芸館所蔵品より」『茶道誌淡交』（発行：株式会社淡交社）
工芸作家の制作において、何世紀にもわたって伝えられてきた各時代のジャンルの異なる古典がさまざまな形で息づいている。この連載は所蔵作品の中から名品を一点選び、古典がどのように生かされ、作品制作と結びついているかをみることによって、工芸作品の奥の深さを解説。

また、次の広報誌に情報を提供し、各号で展覧会広報を行っている。

- 「展覧会情報」『I CLUB NEWS』（発行：株式会社伊勢丹）
在日外国人に対する展覧会情報の提供。

3-2 美術館情報システムによる普及・広報

平成7年度から、国立情報学研究所による学術情報ネットワークを介し、インターネット上に東京国立近代美術館ホームページを開設しており、平成16年度も各種展覧会、上映会、講演会などの催事情報の提供に努めた。8月には、館概要と展覧会情報を掲載した多言語ページ（英、独、仏、中、韓）を開設した。昨年度同様、日替わり情報を掲載して、迅速に最新情報を提供するとともに、メールマガジンを月刊で刊行した。

平成13年6月、独立行政法人国立美術館ホームページを開設したが³、平成14年10月より「法人文書ファイル管理システム」を整備し、独立行政法人国立美術館に関する情報を広く公開することに努めていることは、従来どおり変わりはない。

平成16年11月に当館の蔵書検索システムをバージョンアップして、多言語化し、平成17年3月には独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システム（試行版）を公開するなど、作品及び資料情報の提供の高度化に努めている。

主な日誌：

- | | |
|---------|--|
| 平成7年9月 | 学術情報ネットワーク接続
東京国立近代美術館＝東京大学大型計算機センター 64kbps
専用線 |
| 平成7年10月 | 東京国立近代美術館ホームページ開設 |
| 平成8年6月 | 「インターネット版展覧会カタログ」として、「岸田劉生 所蔵作品と資料の展示」のカタログの抜粋（カラー図版のページ）を掲載 |
| 平成8年9月 | 来館者向け情報提供端末を本館4階ロビーに1台設置 |
| 平成9年8月 | 「小・中学生のための鑑賞教室」を追加 |
| 平成9年10月 | 来館者向け情報提供端末を工芸館2階に1台設置 |
| 平成9年12月 | 新しい所蔵作品検索サービスをインターネットホームページに公開 |

平成10年8月	英文版ホームページを追加
平成13年12月	美術館のリニューアル・オープンのお知らせのページを追加
平成13年6月	独立行政法人国立美術館のホームページを開設
平成13年10月	東京国立近代美術館＝東京大学情報基盤センター 1.5Mbps 専用線
平成14年3月	工芸館のページのバリアフリー設備についての案内を追加
平成14年3月	ホームページでの所蔵作品検索システムを更新
平成14年10月	独立行政法人国立美術館「法人文書ファイル管理システム」を 公開
平成15年1月	所蔵図書の検索OPACを公開
平成15年8月	東京国立近代美術館メールマガジンを創刊
平成15年10月	トップページデザインを更新し、以後、日替わり情報を日次更 新で掲載
平成16年3月	東京都現代美術館美術図書室、横浜美術館美術図書室との横 断検索を公開
平成16年8月	館概要と展覧会情報を掲載した多言語ページ(英、独、仏、中、 韓)を開設
平成16年11月	当館の蔵書検索システムをバージョンアップして、多言語化
平成17年3月	独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システム(試 行版)を公開

ホームページ上での公開・情報提供は、概略、次のような構成からなっている。
東京国立近代美術館ホームページの主な構成：

トピックス

- 美術館
- 工芸館
- フィルムセンター
- イベント
- 解説ボランティア
- こどものページ
- ライブラリ
- 情報検索
- リンク
- 出版物
- 利用案内
- 交通情報
- 採用情報
- お問い合わせ先